

## 応物秋季講演会と Optics Japan の関係について

有本 昭 (日立中央研究所)

最近気になっていることがあり皆様の意見を伺いたいと思います。

今年の両講演会は9月と11月にそれぞれ関西で開かれました。また来年は北海道で別々の期間で行われると聞いています。これは経済状況が厳しい折に参加者にとっては大きな不便をもたらすことになり再検討をお願いしたいと思います。特に最近量子エレクトロニクス、光エレクトロニクスといった分野抜きには光学は語れません。そのため片方のみを聞くだけでは不十分な場合が多いと思われる。Optics Japanの独自性を追求するばかりに、参加者に不便をもたらしてはいないでしょうか？

私見としては Optics Japan は光学会の発展のために詳しい Proceedings や長い発表時間を提供して頂けるので良い情報交換の機会と考えますが、次の要望があります。

- (1) Optics Japan は応物講演会と継続して応物学会開催の近地で開いていただきたい。
- (2) 参加者の負担を少なくするため応物事務局とよく連携の上、光、量子エレクトロニクス、光エレクトロニクスのセッションを Optics Japan の期日と近づけていただきたい。
- (3) 応物秋の光のセッションと Optics Japan との関連を煮詰めていただきたい。

Optics Japan の話は約10年前に日本光学会設立のときに出てきたと記憶しています(そのときの議論に多少加わりました)。応物からの完全独立論を含めていろいろな議論があったように思われますが、日本光学会の進歩、発展のためにさらなる発表機会を作ろうとの話でスタートしたと思います。しかしながら冒頭で書いた他の領域の研究との関連から、応物期間の前後に近い場所(例えば名古屋と浜松であったような)を原則的に選ぶという合意があったと思います。

今のままでかなりの会員に不都合をおしつけているのではないのでしょうか？ ご検討ください。

(E-mail: aarimoto@crl.hitachi.co.jp)

## 意見に対するコメント

Optics Japan '99 実行委員長

河田 聡 (大阪大学)

ご意見拝読しました。

Optics Japan 発足時と異なり、現在応物学会は日程が5日間であり、Optics Japan をそれに連続させると出張日数が8~9日間に及びます。これに対する批判が、今回の応物と OJ 大阪の分離のアイデアに至った理由です。そのかわりに、関西以外の方には2回関西に出張していただく迷惑をおかけすることになりました。これが今回のご批判の主旨だと思います。この両方の批判をクリアする答えは、(1) Optics Japan を止める、(2) Optics Japan は参加者数が多い関東(または関西)で行う(連続・分離は問わない)、のいずれかしかないと思います。

応物から「光」「量エレクトロニクス」「光エレクトロニクス」の発表をなくす、という第3の案は、光学会が決めることではないでしょう。結局、出張日数を減らしたい、あるいはそうせざるを得ない方は、応物か OJ のどちらかを選ぶことになるのではないかと思います。昔と違い、皆がどんどんと忙しくなり、ゆっくり出張できないせちがらい時代になってきました。出席する学会の各自の選択は、学会間の競争、個性化を促進しますから、OJ、日本光学会には応物にない魅力あるプログラムづくりが求められます。

OJ 99 大阪では、テーマ公募型シンポジウムや、ナイトセッション、非応物系の光学研究者やアジアの研究者の招待講演などが、そのための戦略でした。このような企画は一貫して来年以降も続けていただかなければ、光学会の個性は生まれません。次回の開催地、北見工大は札幌から5時間の距離にあり、連続して学会を行うのは参加者にとって不便で迷惑をかけるとの判断から、次回も分離することになりました。ただ、今回は応物との間に2月半以上の間隔を設けたのですが、今回はその間隔が短くなっていて、残念に思います。次回の委員長は、場所的にも応物との日程の間隔からも運営は大変だと思います。今回も含めて、場所(北見工大)の決定が幹事会等で実質的には議論されていなかったことに原因があります。今後幹事会では、重要問題は提出された原案に対してその場で十分に議論することが必要だろうと思います。そのためには幹事、幹事長の選出方法や学会の運営方針などをもっと議論する必要があります。

OJ 99 では、このようなことを、ナイトセッションで問題提起いたしました。「光学」誌における誌上討論も、よいアイデアだと思います。

(E-mail: kawata@ap.eng.osaka-u.ac.jp)